

箸さばきと摂食行動との関連性について

富岡 孝・桜井 昌子・岩崎 律子

On the Relation between Handling Chopsticks
and Eating BehaviourTAKASHI TOMIOKA, MASAKO SAKURAI
and RITSUKO IWASAKI

箸はわが国の伝統的な食事道具（中国大陸、朝鮮半島もそうであるが）として欠くことができないものであり、また調理用具としてもなくてはならない存在である。

箸の起源を示唆する故事来歴には推論の域を脱した判然たる説はみあたらないが、日本における箸の進化・分化は大陸に比べて著しく、材質や形状はもちろん用途（吉、凶、茶事、会席など）に至るまで様々であり³⁾⁶⁾⁸⁾、日本の食事文化形成に大きな役割を果たしてきた。

一方、米国では最近「日本食」の栄養学的特長を見直す機運が起こり、豆腐を素材とした調理加工品がもてはやされ、「すしバー」が繁昌し、箸さばきが若い女性の間で洗練された教養の一つとなりつつあり、箸の食事文化も国際化時代を迎えた²⁾。

しかしながら、わが国ではこうした箸の活用も近年の食生活の多様化に伴う食事様式の変化と相まって色あせた感を露呈し、とくに若者の箸さばきに関する警鐘は失意に変わり、谷田貝氏⁹⁾に至ってはもはや箸さばきの復活はあり得ないとまで断言しており、この状況は今後も存続するものと考えられる。事実、筆者らが担当している給食管理実習においても箸の持ち方がまずいため、箸さばきの心許無い者（1例：箸を平行に持って抄い上げて料理をとる）が目にとまるようになり、そうした状況がここ数年増加傾向をたどっており、かすかな懸念を抱いている。

以上のような背景をふまえると、食物教育

の場においては食事作法や調理操作術の向上をはかるなど文化遺産継承の見地から箸さばき復活論を提言する余地もある。本研究はそのための基礎的資料を得ようと企図したものであり、今回は女子学生を対象に摂食行動と箸さばきに関する意識調査（簡易な質問紙による）を行ない、箸さばきと摂食行動との関わりについて考察を試みたので報告する。

方 法

1. 調査の時期と対象及び実施方法

調査は昭和61年11月に本学食物栄養専攻一年次の女子学生を対象とし、筆者の1人富岡が担当している授業時間の中で実施した。

実施にあたっては第1表に示した調査票を配布し、解説をしながら各自に記入させる自記評価方式を採用し、氏名をも記入させた。

回収した調査票は177名分であり、これを分析資料に用いた。

2. 調査の内容と分析方法

調査の内容は第1表に示したとおりであり、箸さばきに関わりがあると思われる摂食行動をとりあげ、被調査者の食事体験の経過から生じた意識をとらえ、それによって判断しようと考えたものである。

集計分析にあたっては質問項目ごとに行われる単純集計による分布を観察し、かつ箸の持ち方の良否・箸さばきの良否と他の質問事項との複合集計を試み、二つの側面から考察を加えた。

第1表 調査内容(その1)

食生活状況に関する意識調査

組 番 氏名

住所 都道府県 区市町村 (現在、単身者は出身地とする。)

家族構成

本人	父	母	祖父	祖母	兄	弟	姉	妹	その他	計
					()人	()人	()人	()人	()人	()人

該当欄に○印を付す。()には員数を記入。

- あなたの家庭ではふだんどんな部屋で食事をしておりますか。朝食の時と夕食の時それぞれ1つに○印をして下さい。

<朝食の時> ダイニングキッチン リビングキッチン 食 堂 居 間 そ の 他	<夕食の時> ダイニングキッチン リビングキッチン 食 堂 居 間 そ の 他
--	--
- 食事は座ってするのか、それとも腰かけてするのですか。朝食と夕食について答えて下さい(いずれかに○印をつける)。

<朝食の時> 座って食事 腰かけて食事	<夕食の時> 座って食事 腰かけて食事
---------------------------	---------------------------
- 食事は家族そろってすることが多いですか。バラバラのことが多いですか。該当する項目に○印をつけて下さい。

<朝食の時> 家族一緒が非常に多い 家族一緒がやや多い 家族一緒が半半くらい 家族一緒がやや少ない 家族一緒が非常に少ない	<夕食の時> 家族一緒が非常に多い 家族一緒がやや多い 家族一緒が半半くらい 家族一緒がやや少ない 家族一緒が非常に少ない
--	--
- 家族の食事はごはんとパンとどちらが多いですか。該当する項目に○印をつけて下さい。

<朝食の場合> ごはんが非常に多い ごはんがやや多い どちらともいえない パンがやや多い パンが非常に多い	<夕食の場合> ごはんが非常に多い ごはんがやや多い どちらともいえない パンがやや多い パンが非常に多い
--	--
- あなたの家庭ではめん類をよく食べますか。該当する項目に○印をつけて下さい。

食べることが非常に多い 食べることがやや多い 時どき食べる あまり食べない 食べることが非常に少ない
--

(その2)

6. あなたの家庭の食事は大きく分けて肉料理と魚料理といずれが多いでしょうか。該当する項目に○印をつけて下さい。

肉料理が非常に多い 魚料理がやや多い
肉料理がやや多い 魚料理が非常に多い
半半くらい

7. あなたの家庭の食事は和風、洋風、中華風に大別すれば、10回の食事のうちおよそどの位の割合になりますか。それぞれの回数を書きこみ、10回になるように割りふりして下さい。

和 風	回
洋 風	回
中 華 風	回
計	10回

8. あなたはふだん家族の食事づくりあるいは手伝いをすることがありますか。該当する項目に○印をつけて下さい。

することが非常に多い
することがやや多い
時どきはする
あまりしない
全然といってよい程しない

9. あなたは箸(はし)の正しい持ち方を知っていますか。該当する項目に○印をつけて下さい。

知っている 知らない

10. あなたは日本人として箸の正しい持ち方、使い方が必要だと思いませんか。該当する項目に○印をつけて下さい。

必要だと思う
時々必要だと思うことがある
さほど必要だとは思わない

11. あなたは箸の持ち方、使い方についてこれまでに誰かから注意をうけたことがありますか。該当する項目および欄に○印をつけて下さい。

あ る な い

父	
母	
祖父	
祖母	
その他 (具体的にかく)	

12. あなたは料理をした時(食事づくり、実習などで)、箸の使い方で困った経験がありますか。該当項目に○印をして下さい。

あ る 少しはあった な い

13. あなたは現在、箸の持ち方が正しく、箸さばきが上手だと思いますか。それとも箸の持ち方がまちがっていて下手だと思いますか。該当項目に○印をつけて下さい。

箸の持ち方が正しく、箸さばきが上手
箸の持ち方はまちがっているが、箸さばきはまあまあ
箸の持ち方は正しいが、箸さばきが下手
箸の持ち方がわるいので、箸さばきが下手

14. 箸の持ち方・使い方がまちがっていたり、下手だとこたえた人はこれからでも訓練して正しい箸の持ち方・使い方を身につけようと思いませんか。該当項目に○印をして下さい。

身につけようと思う
身につけようとは思わない
今のままでよいと思う

15. 将来、あなたは自分の子供に正しい箸の持ち方・使い方の「しつけ」をしようと思いませんか。該当項目に○印をして下さい。

「しつけ」をしようと思う
「しつけ」をしようとは思わない
自分も思うようでないので、なりゆきにまかせる

結果と考察

ここでは、上述のように各質問事項ごとの単純集計による分布状況、複合集計（箸さば

きの上手・下手と他の質問事項とのクロス）による分布状況の二つの側面から考察する。

1. 各質問事項ごとの分布状況からみた場合（第2表）

第2表 質問事項の単純集計の分布

		%										
		〈朝食の時〉	〈夕食の時〉									
1	ダイニングキッチン	50.3 (89)	39.0 (69)	することが非常に多い	13.0 (23)							
	リビングキッチン	11.3 (20)	9.0 (16)	することがやや多い	26.6 (47)							
	食堂	6.2 (11)	4.0 (7)	8 時どきはする	41.2 (73)							
	居間	31.1 (55)	47.5 (84)	あまりしない	14.7 (26)							
	その他	1.1 (2)	0.6 (1)	全然といってよい程しない	4.5 (8)							
2	座って食事	37.9 (67)	53.1 (94)	9 知っている	98.9 (175)							
	腰かけて食事	62.1 (110)	46.9 (83)	知らない	1.1 (2)							
3	家族一緒が非常に多い	6.2 (11)	27.7 (49)	10 必要だと思う	73.4 (130)							
	" やや多い	9.0 (16)	27.7 (49)	10 時どきは必要だと思うことがある	24.3 (43)							
	" 半々くらい	10.7 (19)	20.3 (36)	さほど必要だとは思わない	2.3 (4)							
	" やや少ない	24.3 (43)	13.6 (24)	11 ある	78.5 (139)							
	" 非常に少ない	49.7 (88)	10.7 (19)	(父	24.4 (50)							
4	ごはんが非常に多い	53.7 (95)	93.2 (165)	母	50.7 (104)							
	ごはんがやや多い	18.6 (33)	5.1 (9)	祖父	1.0 (2)							
	どちらともいえない	7.9 (14)	1.7 (3)	祖母	4.4 (9)							
	パンがやや多い	9.6 (17)	0 (0)	その他	19.5 (40)							
	パンが非常に多い	10.2 (18)	0 (0)	ない	21.5 (38)							
5	食べることが非常に多い	4.0 (7)		12 ある	15.8 (28)							
	食べることがやや多い	22.6 (40)		12 少しはあった	37.9 (67)							
	時どき食べる	63.3 (112)		ない	46.3 (82)							
	あまり食べない	8.5 (15)		13 箸の持ち方が正しく、箸さばきが上手	19.8 (35)							
	食べることが非常に少ない	1.7 (3)		13 箸の持ち方はまちがっているが、箸さばきはまあまあ	16.9 (30)							
6	肉料理が非常に多い	3.4 (6)		13 箸の持ち方は正しいが、箸さばきが下手	41.8 (74)							
	肉料理がやや多い	27.7 (49)		13 箸の持ち方がわるいので、箸さばきが下手	21.5 (38)							
	半々くらい	55.9 (99)		14 身につけようと思う	68.9 (122)							
	魚料理がやや多い	11.3 (20)		14 身につけようとは思わない	2.8 (5)							
7	魚料理が非常に多い	1.7 (3)		14 今のままでよいと思う	7.9 (14)							
	0回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	未記入	20.3 (36)
	和風	1	2	12	47	62	25	24	2	2	15 「しつけ」をしようと思う	97.2 (172)
	洋風	12	32	46	66	15	4	1	1	15 「しつけ」をしようとは思わない	0.6 (1)	
	中華風	4	82	70	19	2				15 自分も思うようでないので、なりゆきにまかせる	2.3 (4)	

7 および () は実数値

1) 食事をする場所について

朝食、夕食ともに食事をする場の使用状況をみると並列的である (χ^2 検定による有意差あり: $P=0.05$, 以下同様有意水準を5%とする) が、ダイニングキッチンと居間の使用状況は朝食と夕食では逆転しており、居間の使用の仕方については朝食と夕食の間に有意差が認められ、ダイニングキッチンには朝食、夕食の間に有意差が認められないことから、

夕食については居間を使用する者が多い傾向にあると判断される。

2) 食事は座ってするのか、腰かけてするのかについて

座る、腰かける、朝食、夕食の出現状況には大差が認められないものの、座って食事をする者の朝食と夕食の間には有意差が認められ、座って食事をする者は朝食より夕食が多い。一方、腰かけて食事をする者は朝食、

夕食とも変りがなかった。しかし、こうした状況の中にも先の食事をする部屋の様相と抱き合わせて推測すると食事様式¹⁾の多様性も浮かびあがる。

3) 食事の共有度について

家族の食事の共有度は朝食、夕食ともに有意差が認められるが、朝食は家族バラバラでする傾向にあり、家族一緒が非常に少ないと答えたものは49.7%を占めている。一方、夕食については家族一緒がやや多いを含めると55.4%に達し、夕食は先の座って食事をする者が多い傾向と照し合わせると一家団らんの機会であろうと推測され、他方、夕食についても家族一緒が少ない（非常に、ややを含める）者は24.3%あり、社会情勢の複雑多様な側面を反映しているものと考えられる。

4) 主食の摂取状況について

主食はごはん、パンについて朝、夕の違いを求めたものであるが、有意差は認められるものの、朝、夕ともごはんの出現率が高く、夕食については圧倒的にごはんであり、米の人気は根強く食卓に生きている反面、朝食ではパンが多いと答えた者も19.8%（やや多いを含めると）おり、先の家族まじまじに食事をする傾向と照合すると簡便性・個別性を求める要因が介在するものと解される。

5) めん類の利用度合について

これも主食に該当するものであるが、スパゲティーなどを除くと一般には箸を使用するものであり、ごはん同様箸さばきに関連するものとしてとりあげてみた。当然ながら利用度合には有意差がみられ、その利用状況は時々食べる（中性カテゴリーに集中しているが）を含めると89.8%にのぼり、利用度合はかなり大きい傾向を示している。

6) 肉料理と魚料理の出現頻度

めん類同様順位尺度を用いたため、中性カテゴリーへの解答が集中しており、設問の設け方に問題があった嫌いは否めない。ここでは魚料理よりも肉料理の方が多い（有意差あり）と答えた者が上回っており、その比はおよそ1:2.5程度であった。

7) 和風、洋風、中華風料理の出現頻度

これは10回の食事のうち、およそどの程度の割合かを求めたものであり、和風、洋風、中華風の最大度数を示す回数を拾ってみると、それぞれ5回、4回、1回であり、相対的には10回の食事のうち和風、洋風、中華風の割合が5:4:1で和風が洋風に比べ若干多く、中華風が少ない傾向がみられた。

8) 食事づくりや手伝いの存否状況

食事づくりや手伝いをするかしないかを順位尺度によってその度合を求めたものであり、こうしたことが箸さばきにも関連しているとの想定にもとづいた設問事項である。やはり中性カテゴリーに集中しているが、する者（非常に、やや）としない者（あまり、全然）には差がみられ、する者はしない者の2倍に達しており、時々を含めると食事づくりや手伝いは大半の者がしているとみてよいだろう。

9) 箸の正しい持ち方を知っているか否か

全てとってよい程の者が正しい箸の持ち方は知っているか否かと答えている。しかし、正しい箸の持ち方は「これである」との手本を示すものがなく、解答した者が本当に正しい箸の持ち方を認識して答えたか否かは疑問であり、設問自体が愚問の感があり、こうした設問のあり方は今後の質問紙作成にあたっては省みなければならない点である。

10) 正しい箸の持ち方、使い方が必要か否かの意識について

全体の約 $\frac{3}{4}$ にあたる者が必要だと答え、約 $\frac{1}{4}$ に該当する者は時々必要だと思うと答えており、大半はこのことの必要性を認めているようだ。しかし、わずかではあるが必要だとは思わないと回答している者もおり、全くこのことに無感心なのか、それとも「へそ曲り」の冷やかし気分で衝動的にそれへ記入したのか定かでないが、箸の存在価値をもっと認識すべきではないだろうか。

11) 箸の持ち方、使い方について誰かから注意を受けたことがあるか否かについて

箸の持ち方、使い方についてこれまでに誰かから注意を受けた者は78.5%、受けたこと

のない者が21.5%であり、注意を受けた者の内訳は母が最も多く、次いで父、その他（先生、友人など）の順であり、家庭で注意を受けた者は80.5%に達する。箸の正しい持ち方、使い方は幼児期から学童期に身につけないと、以後そのままそれを引き摺ることになるので家庭のしつけが要求される。食事に関するしつけはかつてのわが国ではいろいろ存在した⁹⁾ようだが、せめて箸の持ち方、使い方ぐらいは身につけておくべきではないだろうか。

12) 箸の使い方で困った経験の有無

箸の使い方で困った経験がないと答えた者が46.3%であり、ある、または少しはあったと答えた者が53.7%と半数以上を占めている。食事そのものでは困った経験がない者でも食事づくりや実習などでものを摘み上げたり、移動したり、盛り付けたりする場合、箸を正しく持ち、自在に操れないと失敗したりする原因となる。板前の修業にも米つぶを一つ一つ摘みとる訓練があるそうだ⁹⁾。

13) 箸さばきの上手、下手の意識について

箸の持ち方が正しく、箸さばきが上手と答えた者と持ち方はまちがっているが、箸さばきはまあまあと答えた者は36.7%である。残り63.3%は箸の持ち方は良いが箸さばきが下手だったり、持ち方も悪く箸さばきも下手と答えた者であり、箸が上手に使えない者が6割以上を占めている。こうした状況は今後の世代ではさらに増加することが予想され、このことは家庭でのしつけの「ゆるみ」ばかりでなく、学校給食もそれを助長しているとの意見もあり、日本の食事文化瓦解の根源だと批判する向もある。ともあれ、昌頭にも述べたように食物教育の場においては古来から継承されてきた箸さばきの復活も忘れてはならないテーマの一つと考えられる。

14) 訓練してでも正しい箸の持ち方、使い方を身につけるか否かの意識について

身につけようと思うものは箸さばきが下手と答えた63.3%を上回る68.9%の出現（箸の持ち方はまちがっているが箸さばきはまあまあと回答している者もかさなってか）とな

っており、箸さばき復活の立場からみればこうした意識は好ましい傾向にある。一方、回答なしの者が20.3%、身につけようとは思わない、今のままでよいと答えている者も10%程度おり、これらは現状維持派的な立場にあるものと考えられる。

15) 自分の子供に箸の持ち方、使い方のしつけをしようと思うか否かの意識について

自分の子供にはしつけをしようと思っている者は全部といってよい程圧倒的多数を占め（上記の現状維持派も）、「せめて我が子には」という心づかいの意識がにじみ出ている。

しかし、しつけをしようとは思わない、なりゆきにまかせるなどと回答したいわば「ひねくれ者」的存在も看取される。

2. 箸さばきの上手、下手と他の質問事項とのクロスによる分布状況からみた場合（第3表）

ここでは箸さばきと摂食行動の関わりを看取するため、次にあげる質問事項に焦点をあてた。

①箸の持ち方が正しく、箸さばきが上手
②箸の持ち方はまちがっているが、箸さばきはまあまあ

③箸の持ち方は正しいが、箸さばきが下手
④箸の持ち方が悪いので、箸さばきが下手

以上の4項目と他の質問事項との複合集計を行ない、 χ^2 -検定を実施した。しかし、これら4項目と他項目とのクロスではバラツキ、出現度数の極端な片より（もともとノンパラメトリックな統計量ではあるが）がみられるものがあり、このため χ^2 -検定では有意差が検出される関連項目があるものの、逆に信頼性を欠き、検定自体が無意味になる結果が惹起される懸念もある。そこで、4項目を箸さばきの上手、下手の2群にまとめ、分布のバラツキや片寄りを少しでもおさえる変法をとることにした。従って、この場合には本来互いに引き合う統計量に相殺が生じ、有意差検定による有意性は消失する可能性もでてくる。事実、このようにした場合は有意差検定による有意性は消失し、たとえば4項目でのクロ

スでは食事づくりや手伝いをする度合によって箸さばきの上手、下手に有意差が認められたが（出現度数の片寄りからみて有意であることの信頼性は疑問であるが）、2群にまとめたクロスでは有意差が認められなかった。

以上のような状況においては箸さばきの上手、下手と摂食行動との関連を論ずることに無理もあるが、関連傾向の部分的把握は可能と考えられ、その主たるものを以下に拾い出してみる（ χ^2 —検定 $P < 0.01$ ）。

①食事づくりや手伝いをよくする（非常に多い、やや多い）者は箸さばきが下手な群に多くみられ、食事づくりや手伝いをよくする者が箸さばきも上手というわけではないことを示唆する結果がみられる。

②日本人として箸の正しい持ち方、使い方

が必要だと思っている者は箸さばきの下手な群に多い。日本人は古来から箸を上手に活用してきた民族であり、手先の器用さも群を抜いて優れているといわれ、先端技術はその現われでもあると評されている。こうした箸の活用は日本人の誇りでもあり、箸さばきの下手な者でも箸の正しい持ち方、使い方が必要であるという意識は持ち合わせているものと考えられる。

③箸の使い方でも困った経験のある（少しはを含め）者は箸さばきの上手な群より下手な群の方が多傾向にあり、箸さばきが下手だということはそうした事実が裏付けているものと理解される。

④箸の正しい持ち方、使い方を身につけようと思う者は下手な群に多傾向がみられる。

第3表. 箸の持ち方、さばき方が上手な群と箸の持ち方、さばき方が下手な群との各質問事項のクロス分布

項 目	箸さばきが上手又は まあまあと答 えた群	箸の持ち方が悪く さばきが下手と答 えた群	項 目	箸さばきが上手又は まあまあと答 えた群	箸の持ち方が悪く さばきが下手と答 えた群
0. 家族が4人以下	35	57	4. 朝食 ごはんが非常に多い	36	59
" 5人以上	30	55	" やや "	11	22
1. 朝食 ダイニングキッチン	32	57	どちらともいえない	4	10
リビング "	5	15	パンがやや多い	8	9
食 堂	5	6	" 非常に "	6	12
居 間	23	32	4. 夕食 ごはんが非常に多い	60	105
そ の 他	0	2	" やや "	3	6
1. 夕食 ダイニングキッチン	25	44	どちらともいえない	2	1
リビング "	3	13	パンがやや多い	0	0
食 堂	4	3	" 非常に "	0	0
居 間	33	51	5. めん類 食べることが非常に多い	1	6
そ の 他	0	1	" やや "	18	22
2. 朝食 座って食事	26	41	時 ど き 食 べ る	40	72
腰かけて "	39	71	あまり食べない	5	10
2. 夕食 座って食事	36	58	食べることが非常に少ない	1	2
腰かけて "	29	54	6. 肉料理が非常に多い	4	2
3. 朝食 家族一緒に非常に多い	3	8	" やや "	12	37
" やや "	7	9	半 々 く ら い	36	63
" 半半くらい	4	15	魚料理がやや多い	12	8
" やや少ない	20	23	" 非常に "	1	2
" 非常に少ない	31	57	7. 和食 1 回	0	1
3. 夕食 家族一緒に非常に多い	16	33	2 "	1	1
" やや "	16	33	3 "	3	9
" 半半くらい	16	20	4 "	13	34
" やや少ない	7	17	5 "	24	38
" 非常に少ない	10	9	6 "	9	16
			7 "	14	10
			8 "	0	2
			9 "	1	1

第3表. 箸の持ち方、さばき方が上手な群と箸の持ち方、さばき方が下手な群との各質問事項のクロス分布

項 目	箸さばきが上手又は まあまあと答 えた群	箸の持ち方が悪く さばきが下手と答 えた群	項 目	箸さばきが上手又は まあまあと答 えた群	箸の持ち方が悪く さばきが下手と答 えた群
7.洋食	1 回	6	11.父	う け た	18
	2 "	14		う け な い	47
	3 "	20	11.母	う け た	32
	4 "	19		う け な い	33
	5 "	3	11.祖父	う け た	0
	6 "	2		う け な い	65
	7 "	0	11.祖母	う け た	2
	8 "	1		う け な い	63
7.中華	0 回	3	11.その他	う け た	13
	1 "	29		う け な い	52
	2 "	27	12.あ	る	3
	3 "	6		少 し は あ っ た	16
4 "	0	な	い	46	
8.することが非常に多い		6	14.身につけようと思う	身につけようとは思わない	1
	" やや "	17		今のままでよいと思う	8
	時 ど き は す る	29	未 記 入	32	
	あ ま り し な い	10	15.「しつけ」をしようと思う	「しつけをしようとは思わない	0
全然といってよい程しない	3	自分も思うようでないので		3	
9.知 っ て い る		64	なりゆきにまかせる	62	
	知 ら な い	1		1	
10. 必 要 だ と 思 う		42		1	
	時どきは必要だと思うことがある	20		1	
	さほど必要だとは思わない	3			

箸さばきの下手だと思っている者は訓練してでも上達しようと思う意識は当然なあらわれであろう。

⑤将来、自分の子供に正しい箸の持ち方、使い方をしつけようと思っている者は箸さばきが下手な群に多い。

自分でも箸さばきが下手なので、とにかく訓練してでも子供にはしつけをしようと思う意識の現われであり、家庭でもっと教える必要があると考えている母親は40%という調査結果⁷⁾があるが、この結果においてもそうした傾向がより強くにじみでている。

要 約

最近、日本人の箸さばきに警鐘の聲があがるようになり、箸の日（8月4日）を提唱し、箸の見直しを進めている人も現われた。

筆者らは食物教育にたずさわる立場から、女子学生を対象に箸さばきと摂食行動についての意識調査を実施し、次のような情報を得た。

1) 食事様式の多様化、個別化が現われている。

2) そうした中で食事づくりや手伝いをする者が多い傾向がみられた。

3) その割合には箸さばきが下手だと思っている者が60%以上もいる。

4) 箸の正しい持ち方、使い方を身につける必要性を感じている者が多数みられた。

稿を終えるにあたり、本研究についてご助言をいただいた東京農業大学赤羽正之教授、君羅満講師に感謝の意を表します。

文 献

- 1) 林淳三編：公衆栄養，P48，建帛社（東京），1984.
- 2) 本田總一郎：箸の本，はしがき，日本実業出版社（東京），1985.
- 3) 石毛直道他：食物誌，P108～110，中央公論社（東京），1982.
- 4) 水島治夫：簡約統計学，P48～49，南江堂，1975.
- 5) 根岸謙之助：しつけの贈り物，P26～36，桜楓社（東京），1984.
- 6) 小原哲二郎他編：食辞林，P643，建帛社（東京），1986.
- 7) 坂本元子他：栄養指導総論・各論，P146，第一出版（東京），1986.
- 8) 上田弘一郎：竹と日本人，P23，日本放送出版協会（東京），1984.
- 9) 読売新聞：1986年4月13日，日曜版第4面.